

信州大学医学部附属病院 第2内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2022年3月28日

「CDH1 遺伝子変異を伴う遺伝性びまん性胃癌の臨床病理学的検討」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	5479
研究課題名	CDH1 遺伝子変異を伴う遺伝性びまん性胃癌の臨床病理学的検討
所属(診療科等)	第2内科
研究責任者(職名)	岡村 卓磨(助教)
研究実施期間	倫理委員会承認日～2027年3月31日
研究の意義、目的	<p>本邦において胃癌は3番目に死亡率の高い癌であり、その主な原因はヘリコバクター・ピロリ菌です。</p> <p>一方、ピロリ菌が関与しない胃癌も存在し、その中には遺伝的背景をもつ癌があります。遺伝性びまん性胃癌は、細胞接着に関与するE-カドヘリン蛋白質をコードするCDH1の変異を原因とする遺伝性胃癌として知られていますが、本邦では稀な疾患です。診断には家族歴の聴取とともに内視鏡検査による拾い上げも重要です。しかし、内視鏡所見を含めた臨床的特徴は未だ不明です。</p> <p>本研究は、当科で遺伝性びまん性胃癌と診断した患者様の内視鏡所見や病理検体を用いた解析を行い、遺伝性びまん性胃癌の臨床的特徴を明らかにすることを目的としています。</p>
対象となる方	2016年1月1日から2022年2月28日の期間に当院で遺伝性びまん性胃癌について医療を受けられた方
利用する診療記録／検体	診断名、年齢、性別、内視鏡所見、採取した病理検体など
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集します。それらの結果より遺伝性びまん性胃癌の内視鏡像や臨床的特徴について検討します。
共同研究機関名	本研究は、信州大学のみで実施されます。
問い合わせ先	氏名(所属・職名): 岡村 卓磨(第2内科・助教) 電話:0263-37-2634

既存の診療記録、検査結果、採取検体を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報ができることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。